

《名画の扉》

大川美術館常設展示から



「メリーゴラント」

1940年ごろ、水彩、鉛筆・紙
25.5センチ×35.5センチ

レジナルド・マーシュ（1898～1954年）

パリに生まれ、米国ニュージャージー州に育ったレジナルド・マーシュ。1920年にエール大学を卒業後、ニューヨークに出てフリーのイラストレーターとして活躍しました。その後欧州諸国の古典を学ぶために渡欧し、のちアート・ステューデンツ・リーグに学びます。ここでは都市の情景をありのままに描き、若き画家たちのリーダーでもあったジョン・スローン（1871～1951年）らに師事しています。

マンハッタンに住み生涯この地に暮らしたマーシュもまた、不況下のニューヨーク市民の日常生活、歓楽街の

ルギーを描き続けました。その表現は、伝統的な素描と解剖学に基づく線描を重視した素描や銅版画が多く、ことにエック・テンペラと水彩画を好みました。蒸気機関で回転させた動力装置をもつメリーゴラウンドは、パリから米国に渡り親しまれた遊具です。マーシュはこの時代、しばしば蒸気機関車やメリーゴラウンドをモチーフとしています。躍動感のある筆致で描いた本作は同時代を米国に生きた野田英夫（1908～39年）の同名の作「メリーゴラント」（37年・宮城県美術館蔵）との関連が指摘されてきた一点でもあり、

（小此木）